

20日 火曜

使徒

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、

2:6 この物音がしたため、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、呆気にとられてしまった。

2:7 彼らは驚き、不思議に思った。「見なさい。話しているこの人たちはみな、ガリラヤの人ではないか。

2:8 それなのに、私たちそれぞれが生まれた国のことばで話を聞くと、いったいどうしたことか。

2:9 私たちは、パルティア人、メディア人、エラム人、またメソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントスとアジア、

2:10 フリュギアとパンフィリア、エジプト、クレネに近いリビア地方などに住む者、また滞在中のローマ人で、

2:11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレタ人とアラビア人もいる。それなのに、あの人たちが、私たちのことばで神の大きなみわざを語るのを聞くとは。」



2:12 人々はみな驚き当惑して、「いったい、これはどうしたことか」と言い合った。

2:13 だが、「彼らは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、嘲る者たちもいた。

そしてとうとう聖霊がイエス様の約束通りに、信じ待ち望んだ弟子たちに下りました。聖霊は神ご自身ですから、当然それ以前にも存在しておられましたし、旧約聖書でも神の霊と記されています。ここで聖霊は個人に対してではなく、群れ全体に下られたのです。そしてそこから始まった聖霊のみわざによって教会が成立し、また今日も教会が建て上げられています。

その働きの第一は、他国のことばですなわちあらゆる国のことばで話すことが可能になったということです。これは違う文化にも福音が届くこと、そして全世界に福音が広がることを意味します。今日も私たちは聖霊によって他の文化に生きる人々にも福音を届けることができるのです。

「この人は無理だ」「このような人は教会には来ない」とあきらめないで、何よりも自分自身が聖霊に満たされることを求め、その良い感化によって教会に聖霊が働くことを求めてみましょう

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

